

臨床看護シリーズ 医療・看護における安全性

価格¥27,300
(税込み、送料別)

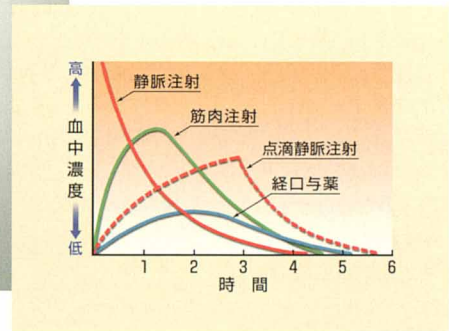
第4巻

「安全な静脈注射のために」 (27分)

《対象》看護系大学、短大、専門学校・病院内新人教育・卒後教育…など

監修・指導：健和会臨床看護学研究所 所長
日本赤十字看護大学 教授

川島みどり



投与ルートと血中濃度

このビデオを有効に利用するために

静脈注射解禁のニュースはさまざまな波紋を呼びました。行うからには、正しい手技で実施することはもちろんですが、薬液の人体内での作用機序についての理解をはじめ、血管の走行や深さなどについての正しい知識を統合したアセスメントは欠かせません。基礎教育、現任教育の場での教材として活用して頂きたいと願います。
(川島みどり)

企画・制作・発売

東京シネ・ビデオ株式会社

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-8-8
TEL 03-3242-3151 FAX 03-3242-3182
<http://www.tokyocine-video.co.jp/>
E-mail: info@tokyocine-video.co.jp

代理店

《企画意図》

2002年9月、厚生労働省は「静脈注射も診療の補助行為の範疇である」と行政解釈を改め、看護師による静脈注射の実施が法的にも認められました。

この事により、今後は看護師が静脈注射を実施する場面が、今まで以上に増えるものと考えられます。

この作品では、日本看護協会の「静脈注射の実施に関する指針」に基づき、単なる静脈注射の手技的マニュアルに止まることなく、静脈注射の質と安全を確保するために、看護師はどうあるべきかを考えて行きたいと思います。

《作品の内容》

●プロローグ

血管内に直接薬剤を注入する静脈注射は、他の投与方法に較べて速効性がある反面、副作用など、患者さんの身体に及ぼす影響も極めて大きいものがあります。

では患者さんの安全を第一に、静脈注射を実施するためにはどのようにすれば良いのか、皆さんと一緒に考えて行きたいと思います。

●静脈注射とは…

- ・患者さんへの薬剤の投与は、医師の指示によって行われますが、その実施は専門職としての看護師の業務です。
 - ・ここで皮下注射、筋肉注射、静脈注射、点滴静脈注射の各注射法の特徴について、復習してみます。
投与ルートと血中濃度の関係を示すグラフからも、それぞれの注射法の特徴を理解する事が出来ます。
 - ・静脈注射には、適切な静脈を選定し注射針を的確に血管内に刺入するという技術的な問題がありますが、静脈注射を単なる血管内への針の刺入の問題として捉えてはなりません。看護師が静脈注射を実施すると言う事は、それが手技的に可能かどうかと言うような単純な問題ではありません。
 - ・まず、実施者としての法的な責任と共に、結果を予見し、危険を回避する義務があることを強く自覚しなくてはなりません。
 - ・実施に当っては、指示された薬液が血管内に入って、どのような仕組みで身体に作用するのかを十分に理解しなくてはなりません。
- また、実施中、実施後の危険な徴候のアセスメントと、対処法についても熟知しておかねばなりません。
- ・さらに、ナースの目から見て疑問があれば医師に意見を述べると言う、自律的判断ができる知識を持ちたいものです。

●ある患者さんの場合

- 山田さんは、水欠乏型の高張性脱水症と診断され緊急入院してきた患者さんです。
- ・脱水症の分類…水欠乏型、ナトリウム欠乏型、両者の混合型。
 - ・脱水症の症状の比較。
 - ・水欠乏型の症状が強い山田さんには、医師からリンゲル輸液500mlの点滴と、吐気止めとして塩酸メトクラミド10mgを混注する事が指示されました。
 - ・適正な輸液量を決めるためには、一日の水分の出入りを計算したバランスシートの作成が欠かせません、それには看護師のきめ細かな観察が基礎となります。

●安全に実施するためのチェックポイント

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・患者さんの状態をアセスメントする・適切な方法で薬剤を準備する
5つのRの確認、3回チェックとダブルチェック。・患者さんの確認・適切な刺入部位の選択・無菌操作によって刺入する・適切な方法で薬液を注入する・適切なライン管理を行なう | <ul style="list-style-type: none">・患者さんの状態を観察し、異常を早期に発見する
予想される副作用の観察・実施の過程を記録する・静脈注射実施の評価
山田さんの場合、翌朝になると意識もはっきりとして尿量も増え、経口で水分を摂取することが出来るようになりました。
点滴静脈注射の効果があつた事が確認されたわけです。 |
|--|--|

看護師による静脈注射の実施については、患者さんの安全を第一に、これら様々な面での環境整備が必要であると考えられます。

これを機に、看護師自身が、安全で質の高い医療を提供し、患者さんから信頼される看護師となるよう、自らを高める努力が求められているのではないのでしょうか。

【撮影協力】 健和会 柳原病院・健和会 臨床看護学研究所 【看護技術指導】 伊藤恵里子・那須実千代・竹内和子・東郷美香子

臨床看護シリーズ 医療・看護における安全性

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 第1巻 「看護過程と事故防止」 | 第4巻 「安全な静脈注射のために」 |
| 第2巻 「誤薬注射事故はなぜ起きたのか」 | 第5巻 「ベッドサイドのリスクマネジメント」 |
| 第3巻 「新人の注射輸液事故を防ぐ」 | |